

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和 8 年 9 月定例会	
議案番号 議案名	議案第14号 令和 8 年度松戸市一般会計補正予算(第 3 回)
議員名・会派名等	政策実現フォーラム・社民(工藤すず子、竹内さちえ、DELI、原ゆうじ、増田かおる)
賛否態度	賛成
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	(政策実現フォーラム・社民では、最終日に行った討論を持って、賛否態度の理由説明としています) まず本補正予算案は、各事業の進捗や社会情勢の変化に柔軟に対応した、全体として適正かつ必要な内容だと判断しました。 旧松戸法務総合庁舎他解体事業(第2期)の減額補正については、本解体工事は新拠点ゾーン整備基本計画改定後の令和 10 年度以降に実施する予定とのことでしたので、具体の工事内容や実施時期等が決定次第、すみやかに近隣住民の方々に丁寧に説明していただくようよろしくお願いします。 また委員会審査において、他会派から予算の一部を削減する修正案が提出されましたが、これは市民生活への影響や行政執行への支障への配慮が不足した、いささか拙速な提案であったと思います。 今回の予算に盛り込まれている都市計画税率引き上げに伴うシステム改修費は、来年度からの正確かつ適正な税務執行を担保するために必要な予算です。もし今、この予算を削除すれば、システム改修が間に合わず、来年度の納税通知書に正しい税額を反映させることができなくなる可能性があります。検証期間すら設けられず、税金の適正な徴収そのものが困難になれば、市民生活に混乱を招くことにもなります。 新焼却施設の建設や小中学校の再編整備など、避けては通れない必須の大型事業を数多く控える本市にとって、今回の都市計画税率の引き上げは、将来にわたる財政健全化のための苦渋の決断です。 現在、本市の都市計画税の充当率は 59%まで低下しています。インフラを維持するために、本来であれば福祉や子育て、教育に使うべき大切な一般財源から、毎年 20～30 億円もの穴埋めを続けているのが実態です。この税率見直しによって、都市計画事業への穴埋めに回していた一般財源を浮かせ、それをしっかり基金等へと回していくことこそが、今取り組むべき財政改革の本質であります。これ以上の先送りや遅れは、本市の首を絞めるだけではないかと考えます。 一方で、今回の歳入質疑を通じ、市長をトップとする財政改革の取り

	組みによって、財政調整基金が令和 10 年度末に 32 億円まで回復する見込みが示された点については、一定の評価をいたします。 しかしながら、自治体の一般的な適正規模と言われる標準財政規模の 10%、つまり本市で言えば約 100 億円という安全水準から見れば、32 億円という数字は依然として綱渡りの危険水域にあると言わざるを得ません。 市は「何かあったときに柔軟に使えるようにするため、目標値は設定しない」と説明されますが、規律なき柔軟性は、ただの行き当たりばったりの取り崩しに繋がりがねません。「これだけは手を付けない」という、市民が安心できる確固たるベースがあって初めて、柔軟な活用が生きてくるのではないのでしょうか。 近隣の柏市などが 10%という目標をあえて掲げているのは、柔軟性を捨てるためではなく、市民に安心してもらうためのいわば守りの約束なんだろうと思います。松戸市としても、せめて年間予算の数%は常に維持するといった、市民が見て安心できるような最低限のルール作り、防衛ラインの設定を、ぜひ前向きに検討していただくよう強く要望いたします。 財政の健全性は、将来の市民サービスを守るための揺るぎない土台です。物価高騰の中でインフラ更新の荒波を乗り越えるためにも、今補正予算を速やかに成立させることが、大変重要であると考えます。ただ市民の皆様にご負担をお願いする以上、財政当局におかれましては、「なぜ必要なのか」「何に使われるのか」を誠実に、かつ明確に説明し、今後の財政健全化へ計画的かつ着実に取り組むことを強く期待いたします。
--	---